

ご支援・ご協力いただいている企業・団体様一覧

DENSO
Crafting the Core



カリッテ株式会社／デンソーテクノ株式会社／デンソー太陽株式会社／デンソー労働組合／トヨタL&F中部株式会社
株式会社R and Tカンパニー／株式会社UACJ Marketing & Processing／株式会社アイビックス／株式会社クイックス
株式会社デンソーウェーブ／株式会社デンソーシェアードサービス／株式会社デンソーエアクール／株式会社デンソーエスアイ
株式会社デンソーエムテック／株式会社デンソーエレクトロニクス／株式会社デンソーダイシン
株式会社デンソートリム／株式会社デンソーファシリティーズ／株式会社デンソープレステック／株式会社デンソーリマニ
株式会社デンソーロジテム／株式会社デンソーワイズテック／株式会社デンソー郵船トラベル／株式会社マキノ
株式会社ヤマイチブライメタル／刈谷紙器株式会社／京三電機株式会社／暁輸送株式会社／社会福祉法人太陽の家
石川管工株式会社／赤門ワイレックス株式会社／浜名湖電装株式会社／株式会社八神製作所／中部産業株式会社
伊藤精工株式会社／株式会社デンソー コアスキル開発部 技能人材開発室 DNA研修課
株式会社デンソーサービス沼津／株式会社デンソーユニティサービス／株式会社デンソーワイパシステムズ
車いすインバスケケット岐阜エクスプレス／寿金属工業株式会社／日本福祉大学／スマイルひねる会／
株式会社モビリティイノベーションテクノロジー／小田鉄網株式会社 (順不同)

発行：認定NPO法人アジア車いす交流センター（WAFCA）
〒448-0026 愛知県刈谷市中山町二丁目38 ディースクエア4F
TEL：0566-23-5822 FAX：0566-23-5822 MAIL：contact@wafca.jp

発行日：2025年6月28日

移動の自由がひらく 子どもたちの未来



WAFCA ANNUAL REPORT 2024



障がいがあるだけで、 外出も勉強も就職もできない 子どもたち

貧困がゆえに車いすが買えず、ベッドから起き上がることもなく、1日ずっとテレビや天井を見て過ごすだけ、という子どもたちがいます。学校にも行かず、就職もせず、そのまま社会から孤立してしまうということが起きています。

体に合った車いすが 子どもたちの未来をひらく

国の支援では、子どもたちの体に合わない大人サイズの車いすが渡され、無駄になってしまうことがあります。
WAFCAは、一人ひとりの体に合った車いすを届けることで、移動の自由を実現し、子どもたちの未来が変わるきっかけをつくっています。



診断

本人や家族をはじめとする
介助者にもヒアリング



提供

体のサイズや障がいの
特長に合わせた
フィッティング

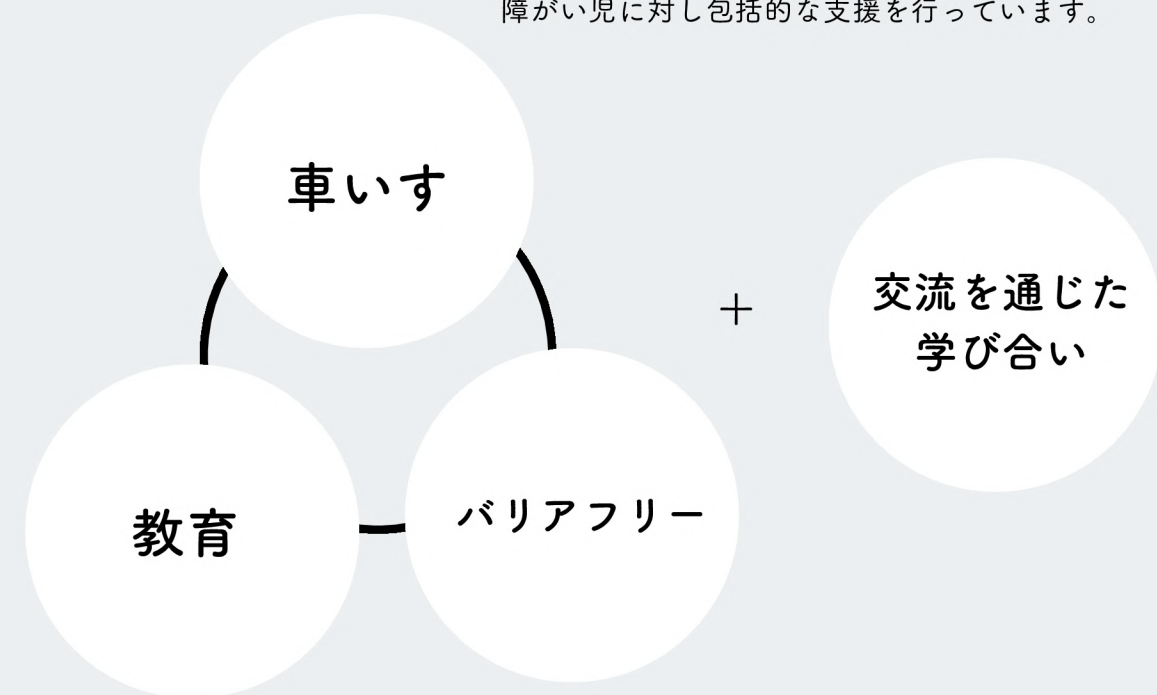


フォローアップ

車いすの修理、
体の成長に合わせた
交換

WAFCAの活動

1999年に株式会社デンソーがWAFCAを設立してから25年。
積み重ねてきた年月の中での学びを活かし、
障がい児に対し包括的な支援を行っています。



数字で見る2024年度

＼車いす寄贈台数／

401 台

タイ155台+インドネシア246台



＼奨学生の人数／

110 人

タイ52人+インドネシア58人



＼バリアフリー工事の件数／

5 件

自宅3軒+学校2校



＼個人寄付者／

1,657 人



＼WAFCA会員／

2,554 人



＼支援企業数／

51 社・団体



WAFCA Group Vision 2030

WAFCAは障がい児一人ひとりに寄り添い、
自立へ導く実効性のある環境作りに取り組むことによって、
障がい児のレベルに応じた自立と生活の質の向上を実現します。

理事あいさつ



WAFCAおよびWAFCATは2024年度に創立25周年を、WAFCAIも10周年を無事に迎えることができました。これはひとえに創立から今日までの多くの皆様のご支援とご協力の賜物です。改めて心より御礼申し上げます。

四半世紀の間に世界は大きく変化しました。しかしアジアの障がいのある子どもたちやその家族のWell-beingが向上しているかと問われれば、胸を張ってYes!と言えない現状が続いています。

私はWAFCAT/WAFCAIの協力を得て、時には車いすダンス講習も併せながら、2017年からタイ・インドネシアに渡航し、現地の子どもたちと家族に触れ合ってきました。特にここ2年間はタイ北部の子どもたちを訪問し、現状を聞き取り、どのような支援が必要なのかをWAFCATスタッフから学ぶと共に、同行した共同研究者らと今後の課題について議論を重ねてきました。これは小さな一歩の積み重ねではありますが、現場を知ることで湧き上がる言葉にできない思いは大きく膨れ上がるばかりです。

私たちはそれぞれが感じている思いや考えを結集し、皆様と共に子どもたちの今と未来を共に考えていきたいと思えます。それには、現状に即した支援を継続していくサポート体制の再考も必要です。

25周年を機に、WAFCAは新しい一歩を踏み出さなければならないのです。

皆様、今後もWAFCAグループそしてアジアの障がいのある子どもたちを末長く支えていただけますよう心よりお願い申し上げます。

WAFCA 理事長
桜花学園大学 教授 寺田 恭子



▲WAFCA25周年を記念してイラストを作成しました

「いろんな人が関わり障がい児の未来のサポートをしてきたWAFCAが、さらに多様な人と協力して未来に向かって歩いていけますように。」そんな願いを込めてデザインしました。

イラストを作成いただいたのは、WAFCA20周年時やWAFCAインドネシアのコーヒーパッケージでもお世話になっているKyoko Nishimuraさん。今回もかわいいイラストをありがとうございました！

副理事長



2024年は設立25周年、そして、2029年は設立30周年を迎えます。設立以来、活動の幅も広がって、確実な歩みを進めております。WAFCATやWAFCAIをはじめとする現地事務局のスタッフと連携し、これまで多くの子どもたちに車いすや奨学金を届けてきました。

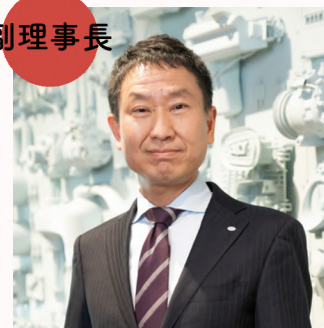
障がいのある子どもたちは、学びたい・働きたいという強い意欲を持ちながらも、教育や雇用の機会に恵まれない現状があります。しかし、自由に移動できるようになれば、彼らの世界は大きく広がります。学ぶ喜びを知り、未来に希望を持つことができるのです。

子どもたちの笑顔は、私たちにとって何よりの喜び。
その笑顔の輪を、これからも広げていきましょう。

The freedom of mobility opens up the future!

名古屋国際工科専門職大学 教授 佐藤久美

副理事長



2020年度からWAFCAの運営に携わり、早いもので5年が経過しました。WAFCAの設立以降、アジアの障がい児に届けた車いすは7,872台、自立に向けた教育支援としての奨学生数は3,194人。「移動の自由がひらく子どもたちの未来」。1台の車いすで、タイやインドネシアの障がい児が外出できるようになる、学校にも行ける、仕事にも就くことができる、まさに人生の可能性を広げる活動に取り組んでいる、私にとって、WAFCAの活動はそう実感できるものです。

1949年に創業したデンソーは、昨年12月に75周年を迎えました。創立50周年でWAFCAを設立し、今日までWAFCAを育ててこられた諸先輩方、そして日頃からWAFCAを様々な形で支えていただいている会員・企業・サポーターの皆様、心から感謝と敬意を表するとともに、受け継いだ襷を進化させ、次世代に着実につないでいくことで、WAFCAの2030年ビジョンを実現していきたいと思えます。

株式会社デンソー 総務部 部長 加藤晋也

理事



日進医療器株式会社
代表取締役
松永 圭司

理事



愛知県立安城特別支援学校
元校長
藤原 孝太郎

理事



藤田医科大学保健衛生学部
リハビリテーション学科基礎理学療法学講師
都築 晃

理事



車いすダンスビバーチェ
代表
豊田 優

理事



アジア車いす交流センター
事務局長
卯野 尚志

理事



愛知県経営者協会
専務理事兼事務局長
岩原 明彦

理事



デンソー太陽株式会社
前代表取締役
岩崎 正

監事



会計事務所ブロースト
税理士
金子 尚弘

監事



あいおいニッセイ同和損保株式会社
トヨタ営業部長
米光 秀司

車いす支援事業



タイ



WAFCAT
マネージャー
ウィング

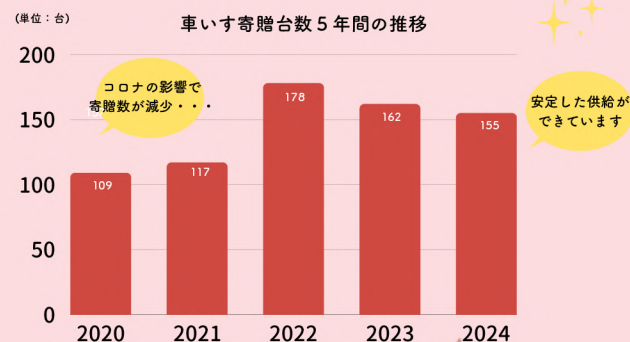
節目の年、25周年を迎えて

2024年度は車いすサービスや障がいのある子どもたちへの教育支援といった継続的な事業に加え、新たな障がい児に向けた啓発活動の開始や、卒業生・理学療法士同士のネットワーク強化にも取り組みました。これらの取り組みは、困難を伴うものでしたが、挑戦を恐れず前進する一年となりました。25周年記念イベントや資金調達の準備にも不安はありましたが、スタッフ、理事、支援者、ボランティアの皆さまのご協力により、無事に目標を達成することができました。

25年という節目を迎えましたが、私たちの歩みはここで終わりではありません。

26年目、そして30年、40年、50年と、これからも障がいのある子どもたちが平等な機会を得て、より良い人生を送ることができるよう、活動を続けてまいります。

これからも変わらぬ温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



WAFCAT 25周年記念式典

3月23日、タイ芸術文化センターにて、WAFCAT25周年記念式典が開催されました。長年お世話になっている方々や、WAFCATの奨学生、フレンドシップツアー参加者が参加しました。これまでの歩みを振り返るとともに、未来へ向けた新たな一歩を踏み出す場となりました。



車いすダンスの披露



「寝たきり」から「座って笑う日常」へ

かつて寝たきりで過ごしていたレックさんは、2024年1月にWAFCAを通じて専用の車いすを受け取りました。身体の状態に合った車いすの提供に加え、ご家族による日々のリハビリの積み重ねにより、わずか数か月で車いすを日常的に使用できるようになりました。

同年11月のフォローアップ訪問時には、座位姿勢が安定し、外出時などにも車いすを活用して生活の幅が広がっていました。ただし、長時間の使用では身体が前にずり落ちる課題が見られたため、理学療法士の判断で滑り止めクッションを新たに製作。後日、再訪問による調整を行いました。

使用開始から1年5か月が経過した現在、レックさんには目に見える変化が現れています。たとえば、首がしっかりと支えられるようになり、車いすや床に座った状態で自ら姿勢を保てるようになってきました。移動や姿勢保持が可能になったことで、生活の中での関わりや行動の選択肢が広がっています。



レックさん(9歳)

現地理学療法士向けの勉強会

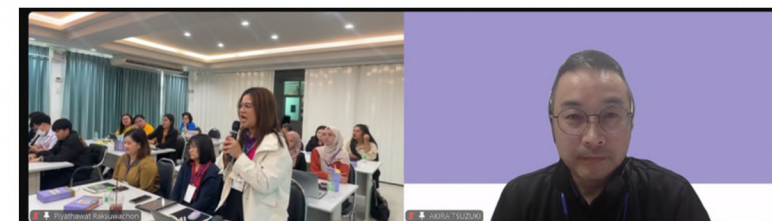
障がい児のケアと生活の質を考える

2月6日・7日、障がいのある子どもたちのケアと生活の質（QOL）の向上をテーマに、タイと日本の理学療法士および関係者による事例検討会を開催しました。

日本からは、理学療法士でありWAFCA理事の都築 晃先生が専門家として参加。オンラインを活用し、日本・タイ・インドネシアの3か国で過去に実施された事例や取り組みの概要を紹介し、それに基づくディスカッションが行われました。

今回の検討会は、タイ各県での今後の支援活動やケアの在り方を考える上での重要な機会となりました。得られた知見やつながりが、現場での実践に活かされ、より良い支援の形につながっていくことが期待されます。

▼会場で質問をするタイの理学療法士(左)と都築理事(右)





インドネシア

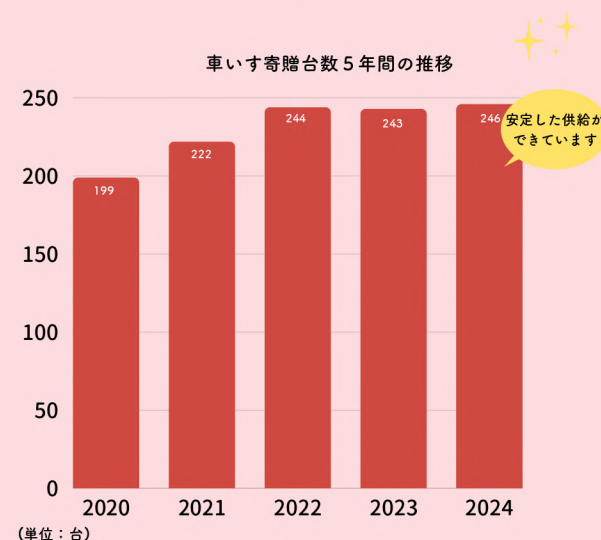
笑顔でつながった10年の歩み



WAFCAI
車いすプロバイダー
アグース

2024年、WAFCAIは10周年を迎え、設立当初からWAFCAIにいる私もWAFCAI勤続10年という節目を迎えました。今年は、新規で246台の車いすを届け、これまでに会った約1,585人の利用者の方々とつながり続けながら、車いすを良い状態に保つためのサポートを行ってきました。また、学ぶ意欲を持つ子どもたちに向けて、今年は58名に奨学金を届けることができました。

私たちは、インドネシアの仲間たちがこれからも少しずつ自立し、自分らしく生活を楽しんでいけることを願っています。WAFCA Japan、そしてご支援くださるすべての皆さま、本当にありがとうございます。皆さまのあたたかい応援のおかげで、私たちは今日もインドネシアで、たくさんの笑顔に出会えています。この幸せを、ぜひ日本の皆さんにも感じていただけたら嬉しいです。



WAFCAI 10周年記念イベント

6月29日、障がい児とそのご家族、寄付者、パートナー企業が参加し、WAFCAインドネシアの10周年を祝うイベントが行われました。開会式では、WAFCAIの活動を紹介し、理事長が歓迎の挨拶を行いました。そして、サヤップ・イブ財団チームによる車いすダンスのパフォーマンス、車いす組み立てワークショップ、塗り絵、ボッチャゲームなどのアクティビティやパートナー企業の製品紹介もあり、大変盛り上がりしました。



-重い障がいを越えて- ブリヤンさんの小さくて大きな一歩

インドネシア在住のブリヤンさんは、ガストロスキシス（腸が体外に露出する先天性異常）という重い病気と、両肘に骨がない障がい、さらに両足の麻痺を抱えて生まれた5歳の男の子です。

彼の父親は亡くなっており、母親は小さな店の小売業で生計を立てていますが、経済的な余裕はなく、ブリヤンさんの体に合った特別な車いすを手に入れることができませんでした。そのため、彼の移動は常に母親が抱える形で行われていました。

WAFCAIはブリヤンさんの状態を丁寧に調査し、障がいに合った軽量で操作しやすい特別な車いすを提供しました。この車いすにより、ブリヤンさんは自力で移動できるようになりました。さらに、母親もブリヤンさんの成長に新たな希望を見出し、将来学校へ通わせる夢を描けるようになりました。



ブリヤンさん(5歳)

WAFCAIを中心に、支援を広げる取り組み

障がい児のための栄養セミナー

3月13日、保護者や介助者の方々約50名を対象に、障がいのある子どもたちのための「栄養と食事のとり方」についての情報共有を行うセミナーを開催しました。対面での参加が難しい方にもご参加できるよう、会場とZoomを併用したハイブリッド形式で実施し、約60名が参加しました。



車いす提供の基礎研修

1月9日、地域パートナー向けに車いす提供に関する基礎研修を実施しました。

この研修は、各地域のWAFCAIパートナーが、障がい者向け車いす申請のデータを自ら収集しWAFCAIへ情報展開することで、車いすの寄贈からフォローアップまで適切に行えるようにすることを目的としています。

研修には7名が参加し、そのうち4名は障がい者でした。研修では、WAFCAIの活動や障がいについて学び、適切な車いすの選び方や正しい姿勢の維持方法を学びました。



2024年度は110人の奨学生を支援しました

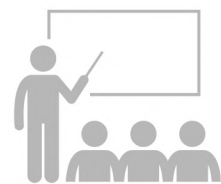


タイ 52名



インドネシア 58名

奨学金の
用途



学校に支払う費用
(制服代、昼食費、ヘルパー人件費など)



教材費、文具購入費



通学にかかる費用



インターンシップ
研修参加費用

絶対に学びを
あきらめない

ナイラさん (15歳)



2016



2017



2023

ナイラさんがWAFCAIの奨学金プログラムに参加したのは、2022年末のことでした。

脳性まひがある彼女は、幼いころから学校生活に多くの困難を抱えていましたが、学ぶことをあきらめず、公共交通機関を使って通学を続けてきました。奨学金を受けるようになってからは、ノートや文房具を自分で準備できるようになり、日常に必要なオムツなどの衛生用品も安定して購入できるように。学校生活の質が大きく向上しました。

最近の授賞式では、母親がこう話してくれました。「奨学金をいただいてから娘の成績が上がり、通学の負担も軽くなりました。」ナイラさんは今、高校進学を目指して前を向いています。

彼女の未来は、努力と支援の積み重ねで少しずつ広がっています。

夢は特別支援学校の
先生になること

プローイさん (17歳)

プローイさんに中学の担任の先生が「経済的に厳しくても進学を希望する生徒向けの奨学金があるよ」と教えてくれたことがきっかけで、WAFCATの支援が始まりました。その結果高校に行くことができ、今は大学生。WAFCATは寮生活をしながら特別支援学校の先生を目指し勉強しているプローイさんを応援しています。



移動の自由から、学びの未来へ。

第6回WAFCAT能力向上研修合宿 DREAM & DRIVE CAMP

10月24～27日、WAFCATはチャチュンサオ県ファイナムサイキャンプで障がい児合宿研修「Dream & Drive Camp」を開催しました。奨学生が親睦を深め、夢を共有し実現方法を学ぶ場として、障がい児19名、教員13名、保護者17名の計49名が参加しました。あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様のご支援をいただき、現地法人のあいおいバンコク様にも開会式にご出席いただきました。

研修の5つの目標

1. スキルと自身の育成
2. 自立の促進
3. 支え合いのネットワーク作り
4. 平等と多様性の大切さを伝える
5. 身体と心の健康作り



今回のキャンプでは「Get Together=一緒に会う」「Talk Together=一緒に話す」「Think Together=一緒に考える」というスローガンのもと、参加者が互いに学び合い、夢を語り合う時間が提供されました。奨学生同士が交流を深めるとともに、それぞれが抱える課題に取り組み、自立に向けたスキルを磨く機会となりました。



WAFCAT高学年成年向けセミナー



3月1日、2日にチョンブリー県／パタヤ・レデンブリスト高等専門学校で19歳以上の障がい者を対象としたこれまでの経験や学びに関するセミナーを実施しました。本セミナーにはWAFCAT奨学生8名、教員、WAFCAT理事、車いすプロバイダーなど合計30名が参加しました。

卒業を間近に控えた奨学生が、学び合い、将来に対する思いを共有し、互いに高め合う機会となりました。

● バリアフリー化支援事業

ケアと支援の担い手づくり

9月3日、WAFCATはバンソクナディ小学校と共に、「バリアフリー化プロジェクト」として、トイレとスロープの贈呈式を開催しました。このプロジェクトに総額72,510パーツ(約33万円)を支援しました。コーンケーン小学校第2区副局長、スリダー・ティアブウン氏が開会の挨拶を行い、WAFCATのモンコーン事務局長が感謝の言葉を述べました。



その後、生徒たちは様々な障がいについて理解を深め、助け合う方法を学びました。たとえば、手話を使うアクティビティや、視覚障がい者をサポートするスキルの学習も行われました。また、トイレの正しい使い方についても学びました。WAFCATはこの取り組みを通して、支え合う共生社会の実現を目指しています。

● 交流事業

相互の学び合いを -事例検討会の定期開催-

事例検討会とは、各国のスタッフが現場で直面した課題や支援の工夫を共有し、地域の特性やニーズを理解したうえで、支援の質の向上や事業の改善を目指す取り組みです。また、共通の課題に向き合う中で、職員同士が問題意識を共有し、日頃のコミュニケーションや連携を深める機会にもなっています。

参加者は、WAFCA理事で理学療法士の都築晃さん、コーディネーターの熊澤友紀子さん、そして日本・タイ・インドネシアの各事務局スタッフ。2022年から2024年末までの間に計25回実施され、2024年度はWAFCATとWAFCAIが交互に毎月1回ずつ事例を提供しながら継続して開催されました。



スタディツアー・フレンドシップツアーinタイ

目的や対象別に実施した2つのツアー。2024年度は参加者18名がWAFCAタイの支援現場に足を運び、現地の障がい児との交流を通じて学び合いを行いました。



初海外・初ツアーの方向け

スタディツアー 2025/3/5~8



寄付者向け・25周年に参加できる

フレンドシップツアー 2025/3/20~23



信頼できる支援先だと
感じました

愛知淑徳大学4年生
佐々木 唯乃さん

高校生のころから5年間、ボランティアやインターンとして関わってきました。現地での支援は子どもたちを最優先に考え、課題を見つけて行動していて、とてもすごいなと感じました。支援する先として安心できると感じました。

大学の講義だけでは得られない学び

ツアーでは、現地のスタッフや利用者との交流を通じて、タイ独自の文化に根差した支援のあり方や、制度上の課題について深く学ぶことができました。

大学での講義では得られない、WAFCAツアーならではの気づきが多かったです。大学の卒を超えて広い世界に目を向け、自分にできることを考えていきます！

日本福祉大学2年生
花井 円香さん



現場で気づいた、WAFCA “らしさ” デンソーアイリスOG WAFCAathlete 伊集 南さん



WAFCAathleteとして広報に関わってきましたが、今回初めて支援の現場を訪れることができました。「アジアの障がい児のために」という目的のもと、さまざまな場所で、さまざまな人たちが活動していることを、直接見て・聞いて・感じることができ、学ぶことばかりでした。そして何より、障がいのある子どもたち一人ひとりに合った、丁寧で温かいWAFCAらしい支援の必要性を、肌で実感しました。これからも、そんなWAFCAの魅力を、もっと多くの人に伝えていきたいと思っています。

WAFCAthleteは、WAFCAの「広報」を担う2022年に発足したアスリートのチーム。
スポーツという切り口で、WAFCAの新たな層への認知度を高め、仲間を集めています。

2024年度は、バスケ・バレー・ソフト・卓球・ボート・陸上
車いすマラソン・アーチェリーから20名のアスリートが活動中です。

スポーツ体験教室で、WAFCAのPR



8月2日、日進市スポーツセンターにて、日進市様ご協力のもとWAFCAthlete特別企画チャリティスポーツ教室を実施しました。この企画は今年で2回目となります。

当日は140名の小学生とその家族が参加し、バスケットボール、ソフトボール、ボートの競技とWAFCAならではの車いす乗車体験をしました。

WAFCAthleteのアイデアで様々な場所に「ワ」「フ」「カ」の文字やWAFCAの活動を知るクイズの文字を散りばめ、楽しくWAFCAを知ることができるイベントとなりました。



WAFCA主催企画のPR

■ SNSで拡散 -拡散によるインプレッション9.5万回
※投稿がユーザーの画面に表示された回数



■ 刈谷駅のサイネージでCM放映



放映した動画は▶
こちらをご覧ください



受賞・メディア掲載

■ 日本ファンドレイジング大賞 入賞

■ 外務省フォトコンテスト特別賞受賞



「チャリティーウオークなど、アスリートの共感を得て、人々を広く巻き込んで活動していて、先駆性のある取組みである」と評価をいただきました。



■ デンソーのOUNDメディア Driven Base掲載



◀Driven Base
記事はこちらからご覧いただけます

■ 7/20 中日新聞掲載

記事はこちらからご覧いただけます（中日BIZナビ会員登録が必要です）▶

■ 2/7 TBS「Nスタ」

放送はこちらからご覧いただけます▶



WEBサイトリニューアル



ぜひチェック
してください！



WAFCA新WEBサイト

11月1日、WAFCA公式WEBサイトが新しく生まれ変わりました。6月から準備を重ね、「見やすく、使いやすく、伝わりやすい」サイトを目指してリニューアルを実施。

- 主な改善点は3つ：
- ① 寄付の導線が明確に
 - ② 新着情報が探しやすい
 - ③ 障がい児/WAFCAを支える仲間の声をたっぷり掲載

これにあわせて、キャッチコピーも刷新しました。

旧：「車いすが変える、子どもたちの世界。」 新：「移動の自由がひらく子どもたちの未来。」
子どもたちの可能性を広げる第一歩、ぜひ新サイトをご覧ください。

● 広報・啓発活動

授業講師派遣・研修受け入れ

WAFCAでは、国際協力と障がい者支援の分野での活動を通じて得た知見を、日本の生徒児童学生に伝える活動として出張授業や研修、ボランティア体験の受け入れを行なっています。

経験と知識を持つWAFCA職員による出張授業で世界を知るきっかけになればと考えています。

2024年度 実施校

桜花学園大学／金城学院大学／
デンソー工業学園／刈谷東高校／黄柳野高校
三重県東員町立東員第一中学校／刈谷北高校
名古屋国際工科専門職大学／中京大学
愛知淑徳大学／東浦町立片葩小学校

内容

- ・ WAFCAの活動紹介ー障がい児の事例
 - ・ 車いす乗り方/修理体験
 - ・ ファンドレイジング
 - ・ 国際協力
 - ・ キャリア教育 など
- それぞれの目的に合わせた講座を実施しました。



イベント出店

24年度は、さまざまなイベントに出店し、WAFCAの活動や障がい児支援について多くの方に知っていただく機会をつくることができました。

今年度は、WAFCAブースのデザインを一新。障がいのある子どもたちの笑顔の写真を大きく使い、目線の高さに合わせたキャッチコピーやレイアウトを工夫することで、お立ち寄りいただいた方が「一目でWAFCAの活動がわかる」ようなブースづくりを目指しました。

今後も、より多くの方に活動を知っていただけるよう、伝わるデザインと対話の場づくりを大切にしていきます。



出店備品を一新！カラーを赤で統一しました

ボランティアを受ける側だった私が、 今はWAFCAでボランティアする側になりました

賛助会員 山口 美紀さん



私はデンソーの特例子会社のデンソー太陽で働いています。WAFCAに入会し、国が違っても障がいがある人が自由に動くことや学校に行くことが難しい場合がある事を知り、恵まれた環境に感謝しています。以前は、障がい者ということで、ボランティアを受ける側でしたが、今はWAFCAの活動を通じてボランティアする側になり、チャリティー商品の販売やチラシ配り、車いす乗車体験のお手伝いをしています。

WAFCA事務局やボランティアの方々がフレンドリーに接してくれ、自分の居場所ができたと感じています。今後も多くの方が楽しい人生を送れるように、微力ながらお手伝いを続けたいと思います。

● 車いす病院

2010年に始動した車いす病院は27人の大きなボランティアチームとなり、日本とアジアの車いすユーザーを支えています。

2024年度の修理台数

259台



日進医療器さんで車いす研修

日進医療器株式会社様にご協力いただき、3年目となる車いす病院ボランティアの研修を実施しました。



経験・知識が豊富な仲間とともに活動しています

旅行で、母を乗せた車いすでの移動時、車いす生活の大変さを実感しました。その後、WAFCAの活動を知り入会。趣味での自転車修理の経験と、モノづくりの職場経験から、退職を期に車いす病院に参加しました。メンバーはフレンドリーで、経験・知識が豊富です。修理は、裁縫や部品製作など様々で、助言を頂きながら対応します。納品時に依頼者から感謝を頂くことで、次の活力となっています。又、学生のボランティア体験学習での交流も楽しく対応しています。この活動で、アジアの障がい児支援の一助になるよう、続けたいと思います。



正会員 黒川 智明さん

● 造形クラブ

2021年3月に藤原理事の主催でスタートした「造形クラブ」、今年度も継続して毎月1回実施しました。休日の土曜日に行う造形クラブには、障がいのある子どもや家族が集まり様々なアート活動に取り組んでいます。

主な目的は、「休日の活動の場をつくること」「子どもたちの特性や才能を多くの人に知ってもらうこと」「保護者や地域連携のコミュニティをつくること」です。



3月に行われたWAFCAT25周年イベントでは、子どもたちの絵を展示しました。これからも、インクルーシブアート活動として交流の輪を広げ、タイやインドネシアとの作品交流も続けていきます。

ファンディング事業

車いす募金 クラウドファンディング

車いすが変わる、子どもたちの世界。

ここ数年、円安と物価高の影響で、日本からの送金額が増加し、赤字決算が続いています。しかし、車いすを待つ障がい児たちには時間の

募集期間

2024年 7/2(火) ▶ 7/31(水)

寄付金額 **284万円**

寄付人数 **353人**

余裕はありません。そこで、現地ファンディング強化とともに、クラウドファンディングで会員の皆様にご寄付をお願いしました。



タイに赴任した時に現地でのツアーに参加したこともあり、障がい児にも会いました。とても意義深い活動を応援しています！

健常者とか障害者とか関係なく、誰もがやりたいことができる可能性が少しでも広がる社会になるといいなと思っています。



教育支援基金 寄付キャンペーン

「当たり前」の学びを、障がいのある子どもたちに届けたい

2024年度末～2025年度はじめにかけ、障がい児教育支援基金のための寄付キャンペーンを実施しました。タイでは5月、インドネシアでは7月に新学期を迎えます。障がいのある子どもたちが学ぶ機会を得られるよう、奨学金や学習環境の支援を届けるためのキャンペーンでした。

募集期間

2025年 3/10(月) ▶ 4/22(火)

寄付金額 **308万円**

寄付人数 **303人**



世界中の子どもたちが、平等に教育を受ける。これが当たり前になる事を、切に願います。

少しでも皆さんの人生の足しになれば嬉しいです。



チャリティウォーク

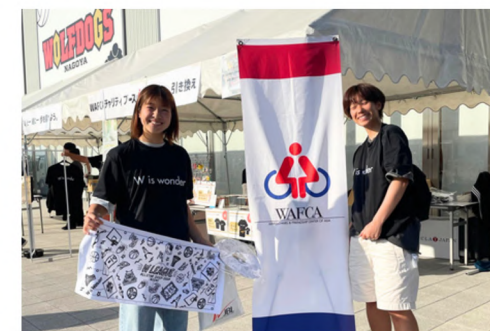
2024年度はチャリティウォークを春と秋に2回実施し、のべ1000人を超える方に参加していただきました

5月 Wリーグオールスターコラボ チャリティウォーク

コラボキャッチコピー

「W」と一緒に、一步を届けよう。

5月3日～4日に愛知県稲沢市で開催されたWリーグオールスターとWAFCAがコラボし、チャリティウォークを実施しました。大会に出場するオールスター選手にもチャリティウォークにご登録いただきました。
また、参加権に加え上乗せ寄付をした方には、選手サイン入りグッズを含むリターン（返礼品）を提供し、さらに歩数リワードとして、歩数上位者にグッズを贈呈しました。その結果たくさん歩いて参加することが参加者自身の満足度向上、健康促進に繋がりました。



11月 企業のみなさまとともに チャリティラン&ウォーク

11月16日～12月6日にかけて、第4回目となるチャリティウォークを実施しました。今回からは名称を「チャリティラン&ウォーク」へと変更しました。
企業協賛についても拡大を図り、継続協賛7社、新規協賛5社と、多くの企業の皆さまにご支援いただきました。参加者アンケートによると、参加理由としては、「チャリティラン&ウォークの趣旨に共感した」「普段からよく歩いているため、無理なく参加できた」といった声が多く寄せられました。

このイベントは、寄付のハードルが低く、WAFCAへの「はじめての関わり」のきっかけにもなっています。今後もより多くの方に参加いただけるよう取り組みを続け、仲間の輪を広げていきます。



オープニングイベント@ディースクエアの様子(11/13)

参加者数

291 + 721 =

5月

11月

1012 名

届けられる車いすの数

56 台

----- ご協力いただいた企業・団体様 -----

DENSO
Crafting the Core

MS&AD
あいおいニッセイ同和損保

DENSO
DENSO LOGITEM



デンソー労働組合

デンソーネットジャパン

金印わさび

株式会社デンソーエアクール

株式会社デンソーソリューション

株式会社デンソーユニティサービス

DNWS

デンソーエレクトロニクス労働組合

WAFCAで活動する仲間たち (2025.3.31時点)

WAFCA 日本事務局



WAFCA タイ事務局

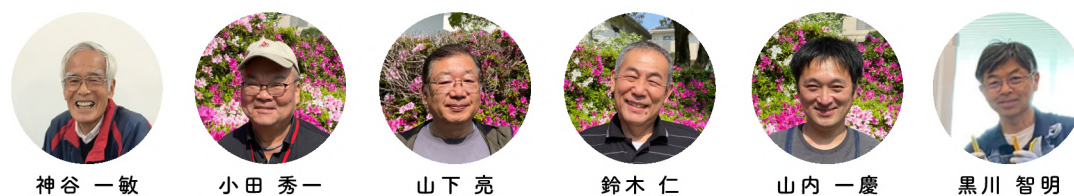


WAFCA インドネシア 事務局



伴走支援 サポーター

車いす病院 ボランティア



事務/ イベント ボランティア



翻訳 ボランティア



撮影 ボランティア



WAFCAathlete



科目	2024年			2025年	
	計画	実績	達成率	計画	対前年比増減率
I 経常収益					
1 受取会費	14,358,000	13,450,431	94%	12,018,234	89%
2 受取寄付金	30,353,826	27,407,408	90%	31,168,000	114%
3 受取助成金	100,000	2,930,000	2930%	1,000,000	34%
4 事業収益	2,094,457	1,955,347	93%	2,740,000	140%
5 交流事業/その他	188,136	261,651	139%	1,629,856	623%
経常収益計	47,094,419	46,004,837	97%	47,556,090	103%
II 経常費用					
1 事業費	46,768,945	45,527,553	97%	48,505,883	107%
2 管理費	5,142,959	6,194,179	120%	6,586,531	106%
経常費用計	51,991,904	51,721,732	99%	55,092,414	107%
税引前当期正味財産財産増減額	-4,817,485	-5,716,895	118%	-7,536,324	131%
法人税、住民税および事業税	21,000	21,000		21,000	
当期正味財産増減額	-4,838,485	-5,737,895		-7,557,324	
前期繰越財産増減額	50,943,498	50,943,498		45,205,603	
次期繰越財産増減額	46,105,013	45,205,603		37,648,279	

I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金	91,434	預り金	224,358
普通預金	22,800,191	未払金	600,782
売掛金	21,300	流動負債合計	825,140
青少年交流基金特定資産	1,000,468	1 固定負債	0
繰越商品（チャリティ商品）	87,137	固定負債合計	0
貯蔵品（切手・収入印紙・商品券・図書カード）	53,910	負債合計	825,140
流動資産合計	24,054,440	III 正味財産の部	
2 固定資産		前期繰越財産増減額	50,943,498
有価証券	20,296,007	当期正味財産増減額	-5,737,895※法人税を含む
車両運搬具	62,585	正味財産合計	45,205,603
什器備品	66,681	負債および正味財産合計	46,030,743
商標権	1,551,030		
固定資産合計	21,976,303		
資産合計	46,030,743		

2023年度の活動計算書、貸借対照表は会計帳簿の記載金額と一致し、認定NPO法人アジア車いす交流センターの収支状況及び財政状態を正しく示していると認める

監事 金子 尚弘 米光 秀司

財務に関する分析

2024年度の総括

今年度は受取会費・受取寄付金ともに予算額を下回りました。一方で受取助成金等は予算額を大きく上回ることなどにより、経常収益全体では予算対比で約100万円の減少に留まり、前年比では約280万円の増加となりました。

一方で経費は主に人件費が減少したことで経常費用全体は予算額を下回り、正味財産増減額は5,737,895円のマイナスとなりました。

2025年度の見通し

個人会員の減少傾向を踏まえ、受取会費は今年度比で減少する予算としています。また、スタディツアーなどでの収益獲得も目指しており、予算全体では今年度比で収益が増加する予算としています。

また、経費については人員増加に伴う人件費の増加を見込んでいます。正味財産増減額が7,536,324円のマイナスとなる予算ですが、必要な支援を継続しつつ収入の幅を広げるための予算を確保することが狙いとなっています。

会員の皆様からは引き続き様々なご意見・ご支援を賜りますようお願いいたします。

編集後記

ここまで読んでいただき、ありがとうございます。
年次報告書を作成した事務局メンバーから、読んでくださっている方へのメッセージをお届けします。

大きな赤字を背負って始めた24年度は、やれることは片っ端から取り組むつもりでしたが、少ない事務局員で回しているので正直息切れしたこともありました。
それでもWAFCAとしてフル稼働できたのは支援者やボランティアさんが支えてくれたおかげです。1年間のご支援本当にありがとうございました。
25年度は、設立から26年が経過し大きな実績を上げているWAFCAを誇りとしながらも、新たな社会課題を視野に入れながら、支援者やボランティアさんにとってのWAFCAを更に魅力あるものにアップデートしていきたいと考えております。引き続き熱く楽しいご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



事務局長
卯野 尚志

年次報告書を振り返ると、「1年間でこんなにやってんだ」と自分でも驚きます。これだけ動けたのは、会員さん、寄付者さん、ボランティアさんのおかげです。
ファンドレイジング（＝資金調達）の仕事は、多分、人より「ありがとう」を言う機会が多い仕事です。そんな中で、支援者さんからいただく「ありがとう」には、背筋が伸びる思いがします。
「自分が役に立ててうれしい」「WAFCAを知れてよかった」「寄付させてくれてありがとう」。
私の仕事は、お客さんを相手にしているのではない。社会課題と一緒に立ち向かう「仲間」を増やす仕事です。これからも支援者さんとともに、障がい児支援に取り組んでいきたいです。



年次報告書編集
ファンドレイジング担当
近藤 みなみ

いつもWAFCAの活動を応援してくださり、本当にありがとうございます！
この1年、国内と海外での交流のあり方をじっくり考えてきました。
例えば、タイスタディツアーやフレンドシップツアーを引率して、自分自身が支援の現場を直接見ることで、そして日本にいる支援者の皆さんに寄付金の価値をもっと知っていただくことがすごく大切だと感じています。
これからもWAFCAをどうぞよろしくお願いします！



国際/国内交流担当
北村 翔一